



平成 19 年 11 月 30 日

各 位

会 社 名 香川県高松市扇町 2 丁目 7 番 20 号
セーラー広告株式会社
代 表 社 名 代表取締役社長 古田 泰仁
(J A S D A Q コード : 2156)
問 合 せ 先 取締役総務本部長 山内 務
(TEL . 087 - 825 - 1156)

「平成 20 年 3 月期中間決算短信」の一部補足説明について

平成 19 年 11 月 12 日付「平成 20 年 3 月期中間決算短信」 4 頁記載の【通期の見通し】について補足説明します。

記

当社グループにおきましては、事業拠点別の前年実績を基に、一般経済情勢および業界の動向を踏まえ、広告業においては、コンペ状況、新サービスの提供、広告主の営業戦略および新規広告主獲得計画等を、出版業においては、月刊誌の販売部数、当年度計画の特集記事および広告企画等を総合的に勘案して利益計画を作成しています。

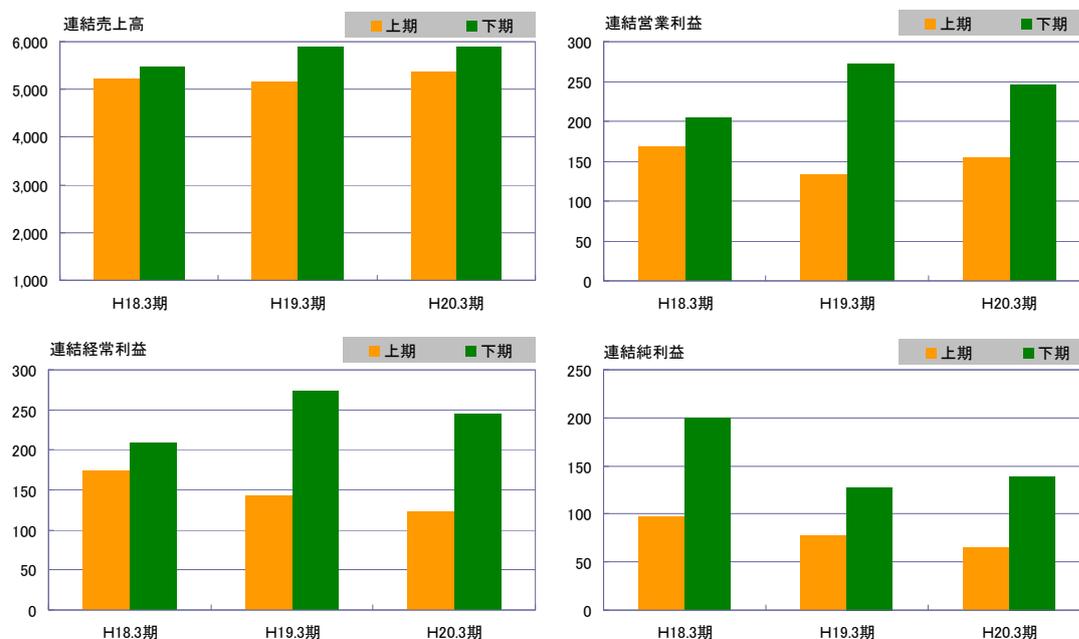
当社グループの事業エリアにおいて、景気は依然厳しい状況にあるものの緩やかに回復しており、大型小売店業者の新規出店や中心市街地活性化事業としての商店街再開発事業（「高松丸亀町商店街再開発事業」と「松山中央商店街道路空間活用まちづくりモデル構築事業」は経済産業省によって平成 17 年度戦略的商業等活性化支援事業に採択されています。）などが計画、実行されています。また、四国アイランドリーグ、高松ファイブアローズ、徳島ヴォルティス、愛媛 FC、四国 Eighty 8 Queen など地元企業に支えられたスポーツチームの活躍がみられ、「眉山」、「UDON」、「県庁の星」など四国をロケ地とした映画製作等の文化活動も行われており、当社グループもこれらに関連したプロモーション活動等に参画すべく営業活動を展開しております。

当年度利益計画の作成にあたり、広告業におきましては、前年からの傾向を鑑み、流通・小売業を中心とした 7 月から 8 月にかけての夏物商戦に伴うセールスプロモーション活動、12 月から 1 月にかけての年末年始商戦に伴う各企業の広告展開、および、不動産・建築事業者の他県への進出に伴うプロモーション活動等の分析を基本に利益計画を作成し、出版業におきましては、取材の中で得た地域情報を利用した別冊単行本の販売増を見込みました。

当社グループの平成 20 年 3 月期上期の業績につきましては、広告業における不動産・建築事業者から受注の低粗利益案件等の影響による粗利益低下と出版業における月刊誌販売部数の減少が主要因となり、当初計画に対して営業利益に不足が生じ、経常利益および中間純利益の不足に繋がりました（詳

細は、平成 19 年 11 月 12 日付「平成 20 年 3 月期中間業績予想との差異に関するお知らせ」をご参照ください。ただし、当社グループの業績は従来から下期のウェイトが高く、当年度におきましても過年度同様下期のウェイトを高く構成しており（図 1 参照）、平成 20 年 3 月期上期における各段階での利益不足が通期業績に与える影響は大きくないと判断しています。

図 1：上期、下期の業績（単位：百万円）



(注 1) 平成 18 年 3 月期および平成 19 年 3 月期については実績数値を記載しています。

(注 2) 平成 20 年 3 月期については平成 19 年 6 月発表の当初予想数値を記載しています。

当社グループの主力事業である広告業におきましては、その事業特性から販売費及び一般管理費等の変動が小さく、粗利益の増減は営業利益の増減に直接影響いたします。平成 20 年 3 月期上期におきましては、低粗利益案件受注等により粗利益率が低下しましたが、同下期におきましては、制作社員の増員効果による内制化率の向上から粗利益率の改善を予定しています。また、平成 19 年 12 月 1 日スタートの地域密着ブログサイト「あしたさぬきブログ」の有効活用により、既存メディアと連携した企画や広告の開発・販売による受注増加を予定しており、当社グループといたしましては、当初の予想通り（平成 19 年 6 月 21 日付「平成 19 年 3 月期決算短信」において発表）の業績を見込んでいます。

以上